



基調講演 1

被害者支援の最前線における長時間曝露(PE)療法の活用

演者 ペンシルバニア大学不安障害治療研究センターサイコセラピスト  
Sandy Capaldi 氏

2002年からフィラデルフィア市内のNPOレイブクライシスセンターWOARで心理セラピストの仕事に従事。2005年シニアセラピスト。2007年より現職。  
PE療法の創始者エドナ・フォア教授のもとで同療法のトレーニングコーディネーターを務める。  
2009年臨床心理学博士号を取得。

(講演要旨)

米国では性犯罪が非常に多発しており、その多くが幼児や思春期の青少年を対象としている。にもかかわらず、思春期の年代のPTSD研究は、成人や幼児を対象とした研究に比較して数が少ない。思春期は人生に於いて非常に重要な時期であり、性被害を受けた場合は早期の介入が必要。

思春期向けのPE療法では、1セッションあたりの時間を短縮したり、本人の両親に対しての心理教育も施したり、状況に応じてプログラムを追加したり削除したり、と成人向けの療法をアレンジして柔軟に対応している。試験的な研究を行ったところ、効果が確認されたので、既存の治療法である、ロジャースが提唱した来談者

中心療法との比較研究もおこなったが、どちらも有効であるとの結果が得られた。PE療法のメリットは、被害者自身がトラウマへの対処法を学ぶことにより、長期的にセルフケアを行っていける点にある。

(座長を務めた東京都医学総合研究所副所長 飛鳥井 望氏のコメント)

WOAR(Woman Organized Against Rape) という組織は、1975年にアメリカで最初に来たレイブのクライシスセンターである。被害者に対して、直接的な支援に加え、PE療法という、PTSDに有効な認知行動療法まで提供するという包括的なサービスを行う、世界でも最先端の組織。カパルディ氏は、このWOARで長く実務経験を積んだ上で、研究も行っている。